

「伝え合い、読みを深め合う児童の育成」

～ 6年国語 物語文教材の指導を通して（海のいのち）～

小千谷市立吉谷小学校 教諭 田中 雄

I 授業改善の視点

本学級は、児童数10名の少人数の学級である。国語の学習で6割の児童が自分の考えを发表或し聞いたりすることは楽しいと解答している。しかし、残りの4割の児童は「めんどう」、「自信が無い」という理由で発表に対する意欲が低い。そのため、授業中に自分の考えを発表する児童が固定化し、伝え合う中で自分の考えを広げたり深めたりする姿は少ない。しかし、課題設定を工夫することで多くの児童が課題に興味をもち、少しずつ自分から発表できるようになってきたり、ペアで伝える活動を取り入れることで、様々な考えに触れ、自分の考えを広めたり、深めたりできるようになってきている。

そこで、本単元では児童から出た感想や疑問から課題を設定したり、伝え合う場面を工夫したりすることで、主体的に自分の考えを伝え合い、児童の考えをより広げたり深めたりすることができると考えた。

III 実践

1 教材名 「海のいのち（立松和平）」（7／10時間）

2 本時のねらい

○叙述をもとに自分の考えを伝え合う活動を通して、太一の「心」の変化や成長をとらえることができる。

3 実践の実際と考察

(1) 主体的に課題を解決するための手立て

初めに物語を読んだ感想や疑問点を児童に発表させ、その中から伝え合いが活発になるような課題を設定した。また、学習の中で児童から生まれた新たな疑問を次の時間の課題として設定し、前時の学習とつなげることができた。教師が一方的に示した課題ではなく、児童が学習の中で見つけた感想や疑問点を取り上げることで、課題に興味をもったり、より身近に感じたりすることにつながり、自分の考えを積極的に伝えられるようになってきた。

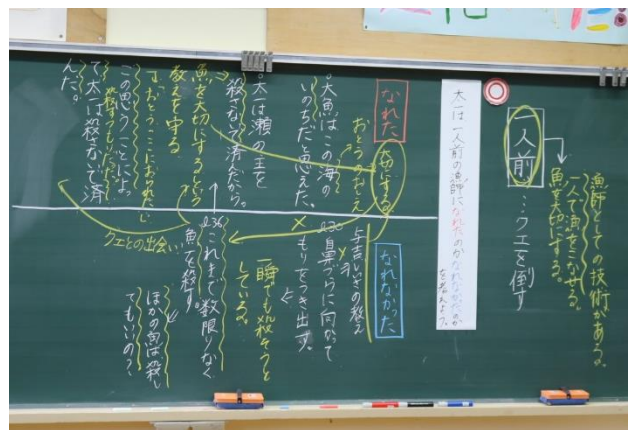


写真1：二者択一の課題設定

また、二者択一の課題を設定（写真1）する際には、一方の考えに偏ってしまったり、叙述からすぐに考えが導き出せたりする課題ではなく、叙述を根拠にし、なぜそう考えるのかを伝え合わなくては互いの考えを主張できない課題を提示した。二者択一の課題提示を単元を通して繰り返し行うことで、叙述をもとに自分の考えを主張する楽しさや相手の意見を受け入れて自分の考えを深めていく面白さを感じさせることができ、自分から進ん

で課題に取り組む姿勢がでてきた。

(2) 自分の考えを広げたり深めたりするための手立て

二者択一の課題を解決する場面でバロメーター（写真2）を活用し、自分の考えを明確にさせた上で伝え合う活動を行った。バロメーターを活用することでどちらの考えかを視覚的に見合わせるため、伝え合う際のきっかけになり、自分の考えを伝え合うことがより活発化した。さらに、友達との伝え合いの中で自分の考えが変化した児童は、その都度バロメーターを動かし、現時点での自分の考えを示していた。それも、新たな伝え合いのきっかけになった。

また、単元を通してペアで伝え合う活動（写真3）を行ったことで、自分の考えに自信のない児童や発表を苦手とする児童にとっては、発表への抵抗を少なくすることができた。着目した叙述は一緒なのに友達との考えが違ったり、考え方は同じだけれど着目した叙述が違ったりするなど、様々な意見に触れることによって、自分の考えを広げたり、深めたりすることができた。

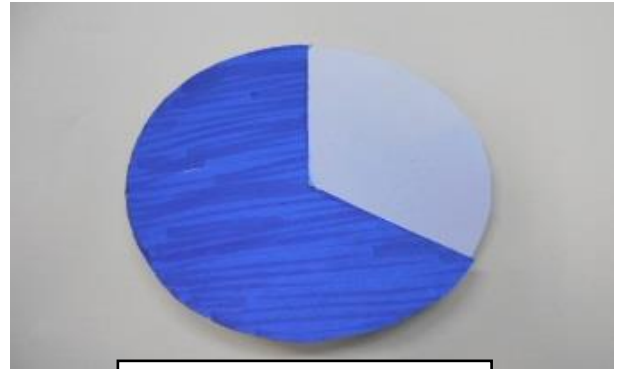


写真2：バロメーター



写真3：伝え合う活動

IV 課題

授業を行う中で、課題に迫るための伝え合い活動が活発になった場面とそうでない場面とがあった。児童は、課題に興味があるものや身近なものであればあるほど意欲的に解決しようとするが、興味や関心をよせるところは全員が同じとは限らない。本実践でも、児童は物語の多くの叙述に着目し、様々な疑問や感想をもった。教師は、児童が物語のどこに興味や関心が向いているのか捉えるとともに、それが課題につながるのかをよく吟味する必要があると感じた。そのため、児童の思考の流れを大切にしつつ、単元で身に付けさせたい力に迫ることができるような単元構成や課題設定の工夫が必要だと感じた。

また、自分の体験や経験をもとに課題について考える力を伸ばしていく必要があると感じた。児童は、課題を考える際に叙述に着目し、そこから根拠を探す姿が定着してきた。しかし、自分の考えを主張する際に、理由付けができていないため、主張が弱くなってしまふことが多い。今後は、自分の経験や体験を照らし合わせ、課題について自分なりの思いをもって考える活動を様々な活動の中に意図的に設定したい。そして、これまで自分達が身に付けてきた課題解決の方法や見方、考え方などを総動員しながら課題の解決にあたり、その力をさらに高めていきたい。

また、ペアだけでなく、同じ考えや違う考えをもつ者同士で伝え合うなど、バロメーターを活かした伝え合いのもち方の工夫が大切であると感じた。

これらの課題を解決していくためには、教材研究が大切である。児童の実態を踏まえ教材と向き合いながら、目指すべき児童の姿に少しでも迫ることができるよう日々の授業に取り組んでいきたい。